

ムーンショット型研究開発事業 プロジェクトマネージャー公募説明会

事業概要・公募概要説明

令和2年2月



科学技術振興機構

挑戦的研究開発プログラム部

Japan Science and Technology Agency



目次

- 1. 事業概要 (p. 3 ~ p.16)**
- 2. 公募概要 (p.17~p.25)**
- 3. 採択後の研究開発 (p.26~p.29)**
- 4. 応募時の留意点 (p.30~p.39)**

- 我が国では、将来の産業・社会の変革（破壊的イノベーション創出）の可能性を秘めた、独創的な研究成果が基礎研究領域から多数生み出されている。
- しかしながら、それら研究成果をスピード感を持って産業・社会に実装化し、グローバルに展開していくための研究開発システムが未完成の状況。

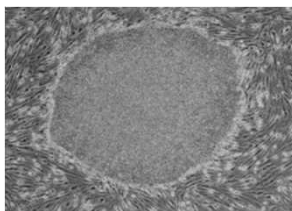
FIRST※1

世界トップ水準の成果の創出を目指した先端的研究開発
(世界トップレベルの研究者を活用)

再生医療・創薬の基盤となるiPS細胞



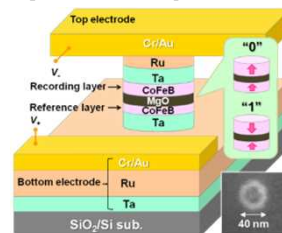
山中 伸弥
京都大学iPS細胞研究所／所長



スピントロニクス原理を応用した省エネ・節電技術



大野 英男
東北大学 省エネルギー・スピントロニクス集積化システムセンター／センター長



日本の優れた基礎研究成果（宝）が海外で破壊的イノベーションを創出

- “CRISPR”と呼ばれるDNAの繰り返し配列を発見

1987年 阪大・石野教授論文

2012年 ゲノム編集技術
(米国カリフォルニア大等)

- 「量子アニーリング」理論を確立

1998年 東工大・西森教授ら論文

2011年 量子コンピュータ
(カナダ D-Wave社)

ImPACT※2

破壊的イノベーションを目指した挑戦的研究開発
(目利き力のある研究者(PM)を活用)

光の量子メカニズムを応用した高速コンピュータ



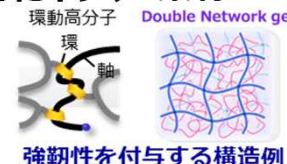
山本 喜久
スタンフォード大学／教授



自動車のEV化を先取りする軽量・強靱化ポリマー素材



伊藤 耕三
東京大学 大学院／教授



※1：最先端研究開発支援プログラム（平成21～25年度） ※2：革新的研究開発推進プログラム（平成25～30年度）

- こうした情勢を踏まえ、**今般創設するムーンショット型研究開発制度は**、少子高齢化の進展や大規模自然災害への備え、地球温暖化問題など、我が国が抱える様々な困難な課題の解決を目指し、**世界中から科学者の英知を結集し、関係府省が一体となって挑戦的研究開発を推進する仕組みを整備。**
- 特に、単なる既存技術の組み合わせ型研究ではなく、**基礎研究段階にある独創的な知見・アイデア**を取り入れた挑戦的研究開発（ムーンショット）を積極的に推進することにより、失敗も許容しながら**革新的な研究成果を発掘し、破壊的イノベーションの創出につなげる。**

<制度のポイント>

1. **人々を魅了する野心的な構想**を掲げ、**世界中から研究者の英知の結集**を目指す

→ グローバルな環境でイノベーションを創出！

2. 我が国の**基礎研究力を最大限に引き上げつつ、失敗も許容**しながら革新的な研究成果を発掘・育成

→ 我が国の独創的な基礎研究がイノベーションを生み出し、次なる基礎研究投資を呼び込む好循環を目指す！

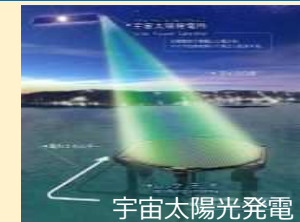
3. **研究マネジメント手法の刷新、最先端の研究支援システム**の構築、**オープン・クローズ戦略の徹底**等

→ 世界動向を常に意識し、スピード感のあるチャレンジングな研究マネジメントに転換！

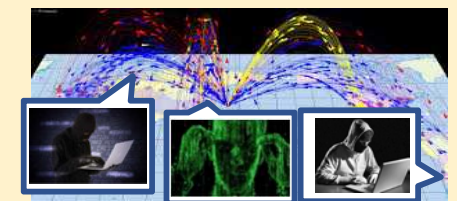
司令塔たるCSTI
の下、関係府省が
一体となって推進

例えば、

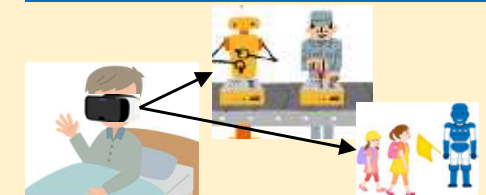
地球の温暖化をストップ



サイバーテロを無力化



「社会参加寿命」を延伸



寝たきりの高齢者が社会活動に参加



●7月31日 ビジヨナリー会議

エリア、ビジョン、ムーンショット目標例の提示

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/moonshot/dai4/gijisidai.html>

●12月17-18日 ムーンショット国際シンポジウム

ムーンショット目標候補の議論

<https://www.jst.go.jp/moonshot/sympo/sympo2019/index.html>

●1月23日 総合科学技術・イノベーション会議（本会議）

ムーンショット目標の決定

<https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/20200123moonshot.html>



目標設定に向けた3つの領域

急進的なイノベーションで
少子高齢化時代を切り開く

地球環境を回復させながら
都市文明を発展させる

サイエンスとテクノロジーで
フロンティアを開拓する

目標1：2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現 (JST)

目標2：2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現 (JST)

目標3：2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現 (JST)

目標4：2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現 (NEDO)

目標5：2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出 (他研究推進法人)

目標6：2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現 (JST)

“Moonshot for Human Well-being”
(人々の幸福に向けたムーンショット型研究開発)

※NEDOが担当するムーンショット目標（目標4）に関する公募については、NEDOのムーンショット型研究開発事業の公募ホームページ (https://www.nedo.go.jp/koubo/CA2_100234.html) をご参照ください

ムーンショット目標の決定

内閣府（CSTI）

ムーンショット目標の達成に向け、挑戦的
研究開発を推進すべき分野・領域等を定めた
研究開発構想を策定

文部科学省

経済産業省

ムーンショット目標の達成
及び研究開発構想の実現に向け、
研究開発の実施

JST

NEDO

委託

委託

大学・国立研究開発
法人・民間企業等

大学・国立研究開発
法人・民間企業等



PM等への支援機能

最先端研究支援会議

- ✓ 国際連携支援
- ✓ ELSI、数理科学等の分野横断的な支援
- ✓ データマネジメント支援
- ✓ 知財支援、オープンクローズ戦略
- ✓ PM研修



PM等への評価等管理機能

ガバニング委員会

構想ディレクター
(PD) 1

PD 2

PD 3

PD 4

- ・ムーンショット目標に関する
研究開発全体の責任者
- ・PMの指揮

研究開発プロジェクト 1

代表機関
(PM所属)

- 拠点的運用
- PM個別支援

【公募対象】
プロジェクト
マネージャー (PM)



研究開発実施指示等

パフォーマー
(研究開発実施)

パフォーマー

世界の英知を結集した、国内外機関、シニア・若手等の多様なチーム構成

研究開発プロジェクト 2

代表機関
(PM所属)

- 拠点的運用
- PM個別支援

【公募対象】
プロジェクト
マネージャー (PM)



研究開発実施指示等

パフォーマー

パフォーマー

世界の英知を結集した、国内外機関、シニア・若手等の多様なチーム構成

ムーンショット目標	構想ディレクター（PD）
1. 2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現	萩田 紀博 (大阪芸術大学 アートサイエンス学科 学科長・教授)
2. 2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現	祖父江 元 (愛知医科大学 理事長)
3. 2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現	福田 敏男 (名城大学 理工学部 教授)
6. 2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現	北川 勝浩 (大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授)

- MS目標達成及び構想実現に向けて、研究ポートフォリオ（プロジェクトの構成（組み合わせ）や資源配分等の方針をまとめたマネジメント計画）を戦略的に構築し、研究開発を挑戦的かつ体系的に推進する。
- ポートフォリオの構築にあたっては、**研究手法の異なるプロジェクトを複数組み合わせる**ことを原則とする。
- ポートフォリオに基づく**研究開発の進捗状況を常に把握**して、研究の順調に進捗しているものには、資源の重点配分をしていく、あるいは成果が全く見込まれないと認められる場合にはプロジェクトを中止するなど、常にポートフォリオを見直しながら、**関係するプロジェクトを統括するPMに対して統一的な指揮・監督**を実施する。

□ PDの指揮の下、**公募時に提案したプロジェクトをより高質・良質なものにするための作り込みを行い、プロジェクト計画書を策定。**

- ✓ プロジェクトの目標の設定
- ✓ 研究開発の内容や実施スケジュールの作成
- ✓ 実施体制の構築
- ✓ プロジェクト内の参加研究開発機関への研究資金の配分計画の策定等

□ プロジェクトを戦略的に実施。

□ プロジェクトの変更、一部研究成果のスピンアウトを含めた**方向転換等を機動的かつ柔軟に実施。**

本事業の主な推進体制②：PM【公募対象】

PMは、以下に定めるPM活動等、自らの指揮で各研究開発プロジェクトのマネジメントを行い、**研究開発プロジェクト全体の責任を負います。**

【主たるPMの活動】

- 国内外のトップ研究者や若手・シニア等多様な研究者の英知を結集し、ムーンショット目標達成から**バックキャスト**したムーンショット目標達成に至る**シナリオの策定**
- **従来技術の延長にないより大胆な発想**に基づく挑戦的な研究開発プロジェクトの設計
- 研究開発**体制の構築**（パフォーマーの選定を含む）
- 研究開発**プロジェクトの実施管理**（パフォーマーの進捗把握及び評価による研究開発の見直しを含む）
- 研究開発成果の広報・アウトリーチ活動
- 研究開発プロジェクトの実施管理に伴う諸業務

代表機関（PMの雇用主たる機関）

JSTとの契約に基づき、PM活動を効果的・効率的に実施できる環境を整備し、PMを補佐する者の雇用等、体制を構築した上で、代表機関内外に所属するパフォーマーの研究開発の進捗管理や研究開発機関間の連携等の様々なPM活動を支援します。また、代表機関が行うPM活動に対する直接的な支援に加え、本事業の最先端支援機能によるPM活動の横断的支援について対応を行っていただきます。

● PM活動に対する支援体制整備

（代表機関におけるPM活動を補佐する者の雇用や労務管理を含む）

（支援内容）

- ① 研究開発プロジェクトの設計（パフォーマーの選考を含む）
- ② 研究開発プロジェクトの実施管理
（パフォーマーの進捗把握及び評価による研究開発の見直しを含む）
- ③ JSTとの連携等（研究開発機関、JST等との実施規約及び契約業務を含む）
- ④ 研究開発成果の広報・アウトリーチ活動 等

【PM採択後の作り込みを経て、PMが選定】

パフォーマーは、MS目標達成及び構想実現に向けて、PMが指示した、研究開発プロジェクトにおける研究開発の分担内容を実施します。JSTは、選定されたパフォーマーの所属機関（研究開発機関）と委託研究開発契約を締結し、委託研究開発費を支払います。

【注】PMによるパフォーマーの選定について

PMは、指名や公募等の適切な方法によりパフォーマーを選定し、研究開発体制を構築します。なお、研究開発体制の構築は、原則作り込み期間に実施していただきますが、進捗状況や外部環境の変化等に応じ、研究開発プロジェクト実施期間中においても、パフォーマーの追加、変更等は可能です。

提案時には、研究開発プロジェクトの実施に必要不可欠と考える者（主要なパフォーマー候補）について、提案書に記載してください。

研究開発プロジェクト（公募対象：PM）

構想ディレクター
(PD)

ムーンショット
目標に関する
研究開発全体の
責任者

指揮

研究開発プロジェクト 1

プロジェクトマネージャー (PM)

科学 太郎

(所属：●●大学大学院▲▲学研究科)

代表機関

研究開発実施の指示等

パフォーマー 1
科学 次郎

パフォーマー 2
科学 三郎

パフォーマー 3
科学 花子

研究開発プロジェクト 2

PM：技術 花子

(所属：株式会社●●)

代表機関

パフォーマー 1
技術 太郎

パフォーマー 2
技術 次郎

パフォーマー 3
技術 三郎

【PM採択人数】

各ムーンショット目標
あたり、4名を目安。

※PDの判断によっては
この限りではありません。

提案締切

5月12日（火）正午

（e-Radでの応募は3月10日（火）より受付）

※切後は提案を一切受理しませんのでご留意下さい

書類選考結果の通知

6月中旬～6月下旬

面接選考期間

6月下旬～7月初旬

選考結果の通知・発表

7月初中旬

面接選考会日程は後日公開予定です。ウェブサイトをご確認ください

以下の1. から5. のすべての要件に応募時のみならず、採択後も満たしていることが必要です。

1. 応募は、共同提案ではなく、1名でなされること。
2. 可能な限り高いエフォートで専らPM活動に従事すること。（※）

（※）ただし、研究開発プロジェクトの一部の研究開発をPM自らが実施することが成果を得る上で極めて効果的であるとPDが判断した場合は、パフォーマーとして研究開発に参画することを認める場合があります。
3. 全研究開発プロジェクト実施期間を通じ、責任者として研究開発プロジェクト全体の責務を負えること。

4. 所属機関において研究倫理教育に関するプログラムを予め修了していること。
または、JSTが提供する教育プログラムを応募締切までに修了していること。
5. 応募にあたって、以下の4点を誓約すること。
 - 「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン（平成26年8月26日文部科学大臣決定）」の内容を理解し、遵守すること。
 - 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）（平成26年2月18日改正）」の内容を理解し、遵守すること。
 - 研究開発活動の不正行為（捏造、改ざん及び盗用）ならびに委託研究開発費の不正使用を行わないこと。
 - 本提案書に記載している過去の研究開発成果において、研究開発活動の不正行為は行われていないこと。

提案する研究開発プロジェクトが、以下の１．～３．を満たす必要があることを十分に理解した上で、応募してください。

1. 事業趣旨との整合性

MS目標の達成に向けて、より大胆な発想に基づく挑戦的なものであり、実現すれば産業・社会に大きなインパクトをもたらす、社会課題の解決に寄与できるものであること

2. MS目標達成に至るシナリオ*

- ✓ 研究開発プロジェクトとして取り組むべきシナリオとして、技術的観点のみならず社会的観点も含めた幅広い視点でとらえていること
- ✓ 克服すべき課題を分析し特定していること
- ✓ 克服すべき課題の解決に向け、科学的な裏付けに基づいた手法・手段が示されていること

提案書において、採択時点から3年後・5年後・10年後のマイルストーンを達成するためのシナリオや、成果の学術・産業・社会への波及効果について記載していただきます。

3. 研究開発体制構築の計画

特定の研究コミュニティのみならず、国内外を問わず最適なトップレベルの研究開発力、及び課題解決に必要となりうる幅広い分野からの知見を結集する体制構築の方策及び体制案を計画していること

1. 研究開発プロジェクト実施期間

- 研究開発プロジェクトの実施期間は、**PM採択時点から、原則として、5年間。**
- PMの採択時点から、原則として3年目、5年目、及びPDが必要と認めた場合も評価を実施します。評価結果によって研究開発プロジェクトの変更（加速、減速）、終了となる場合もあります。
- 5年を越えて継続することが決定した場合には、最大10年間とします。

2. 研究開発プロジェクトの金額規模

- 提案する研究開発プロジェクトの内容に基づいて最も適切な研究開発費をご提案ください。

研究開発費は、採択後の研究開発プロジェクトの作り込み時に立案し、PDの承認を経た計画に依るため、応募時での予算計画はあくまで概算金額での立案となります。

- 提案者は、応募時点では提案者の所属する機関が代表機関（PM活動を支援する業務を主に担う）となるか明らかでない場合でも応募可能です。
- ただし、作り込み終了時までには、代表機関を確定する必要があります。
- なお、**採択後原則約3ヶ月以内**（現在の所属機関以外を代表機関とする場合には、採択された年度内まで）に**代表機関を確定する見通しが得られない際には、採択取り消しとなる場合があります。**

代表機関は、以下の１． ２． のいずれの要件も満たすことが必要です。

1. 日本の法人格を有し、かつ日本国内にPMの活動拠点を有している大学、公的機関、民間企業等であり、作り込み終了時までPMを雇用していること
2. 公募要領4.1.2「代表機関の役割及び責務（※）」に掲げられた内容を応諾し、JSTと契約を締結すること

（※）JSTとの契約に基づき、PM活動を効果的・効率的に実施できる環境を整備し、PMを補佐する者の雇用等、体制を構築した上で、代表機関内外に所属するパフォーマーの研究開発の進捗管理や研究開発機関間の連携等の様々なPM活動の支援（公募要領4.1.1）に加え、本事業の最先端支援機能によるPM活動の横断的支援についての対応

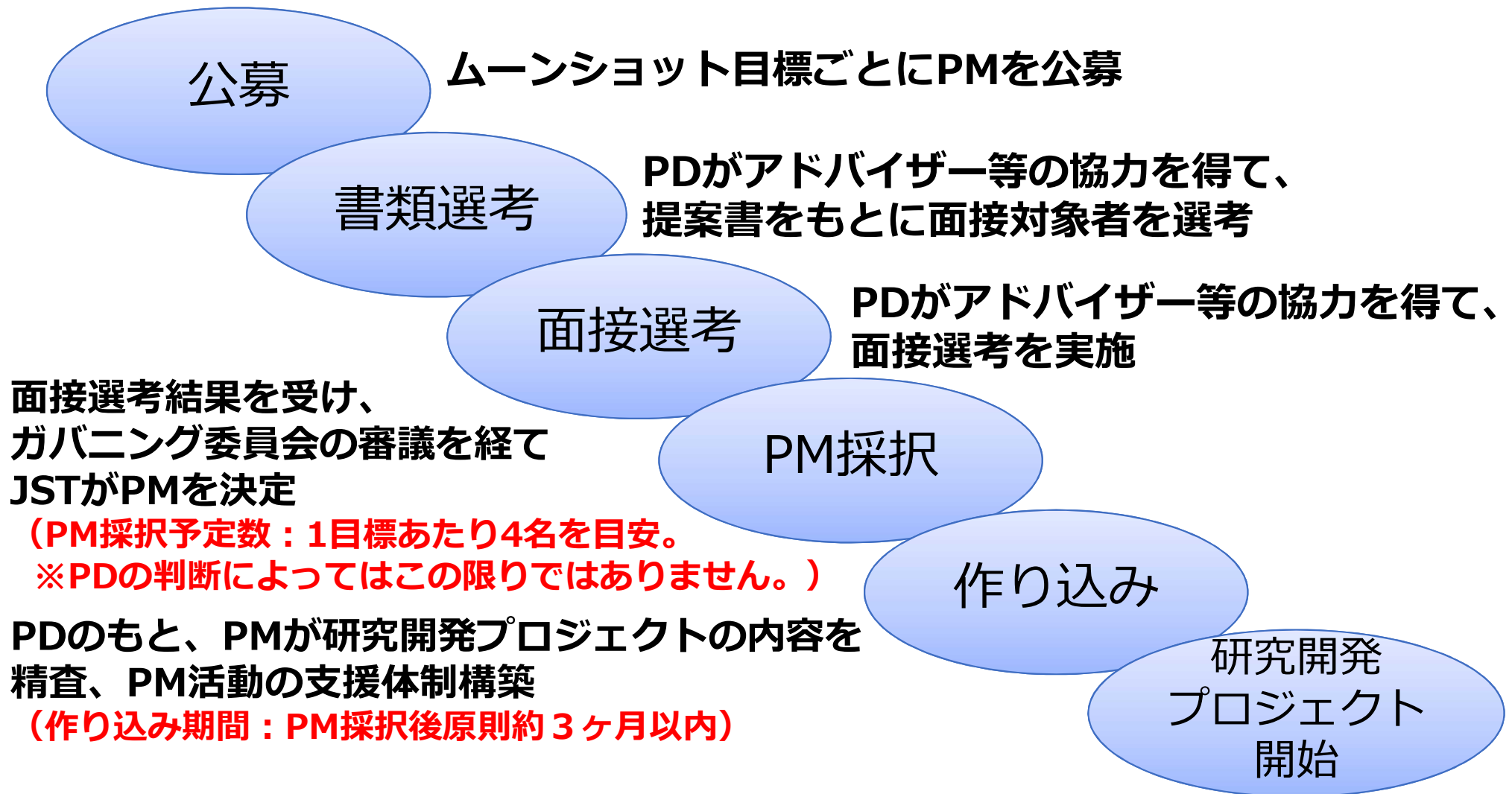
選考は、主に以下の観点に基づき総合的に実施します。

①PMとしての資質

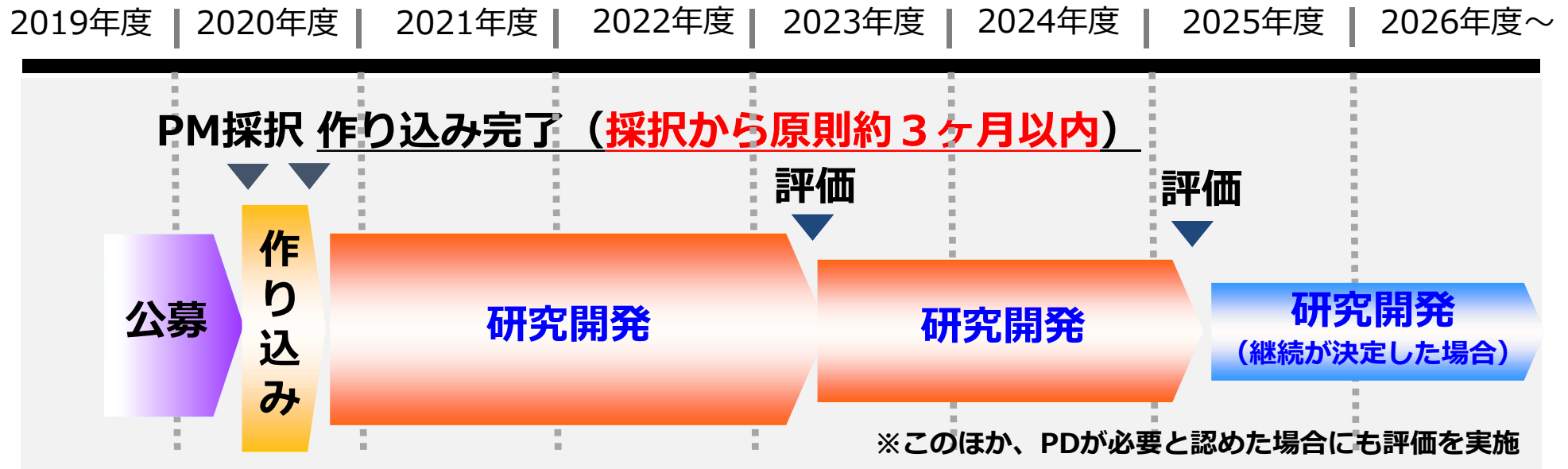
- 最先端の研究開発を推進するため、
国内外の関連する研究者等の幅広い人的なネットワークや専門的な知識を有すること。
- 最適な研究開発体制を構築し、進捗状況等に応じて機動的に体制を見直す等の
マネジメント力（研究データの管理及び利活用に関するものも含む）、
リーダーシップ力を有すること。

②PMの提案する研究開発プロジェクト

- PMから提案されたプロジェクトの目標や内容（以下「提案内容」という。）が、
従来のものと比べ、より大胆な発想に基づくものかつ挑戦的なものであり、
将来の産業・社会に大きなインパクトが期待される革新的なものであること
- 2050年の目標達成に向けて、技術的観点や官民の役割分担を含む
社会実装の観点から妥当なシナリオ（成功の仮説）を明確に説明できるものであること
- 提案内容が国内外を問わずトップレベルの研究開発力や知識、
アイデアを結集するものであること 等



研究開発プロジェクトのスケジュール

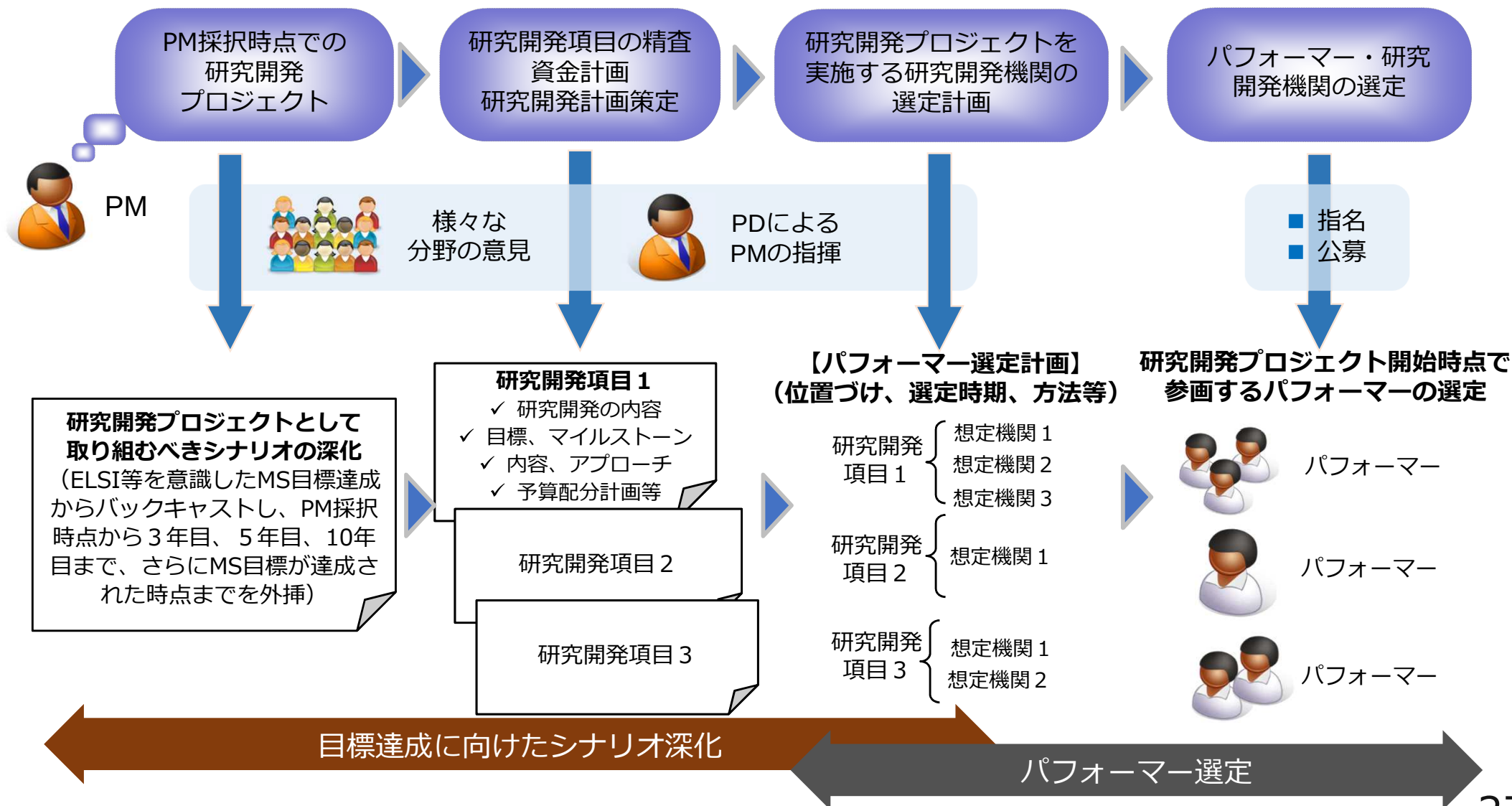


【研究開発プロジェクト実施期間】

- 研究開発プロジェクトの実施期間は、PM採択時点から、原則として、5年間とします。また、5年を越えて継続することが決定した場合には、最大10年間とします。
- PM採択時点から3年目、5年目、及びPDが必要と認めた場合に実施する評価の結果によって、研究開発プロジェクトの変更（加速、減速）、終了となる場合もあります。

作り込み（①研究開発プロジェクトの精査）

PDは、アドバイザー等の協力を得て、作り込みの内容の妥当性を判断します。
その内容が妥当と認められたPMは、研究開発プロジェクトの実施が可能となります。



作り込み（②PM活動の支援体制他）

採択後原則約3ヶ月以内（現在の所属機関以外を代表機関とする場合には、採択された年度内まで）に代表機関を確定する見通しが得られない際には、採択取り消しとなる場合があります。

●PM活動の支援体制の構築

- ・ 代表機関の確定
- ・ PM活動を支援する体制整備計画の立案
- ・ 研究開発プロジェクト開始時点で必要となる支援体制の構築及び環境の整備

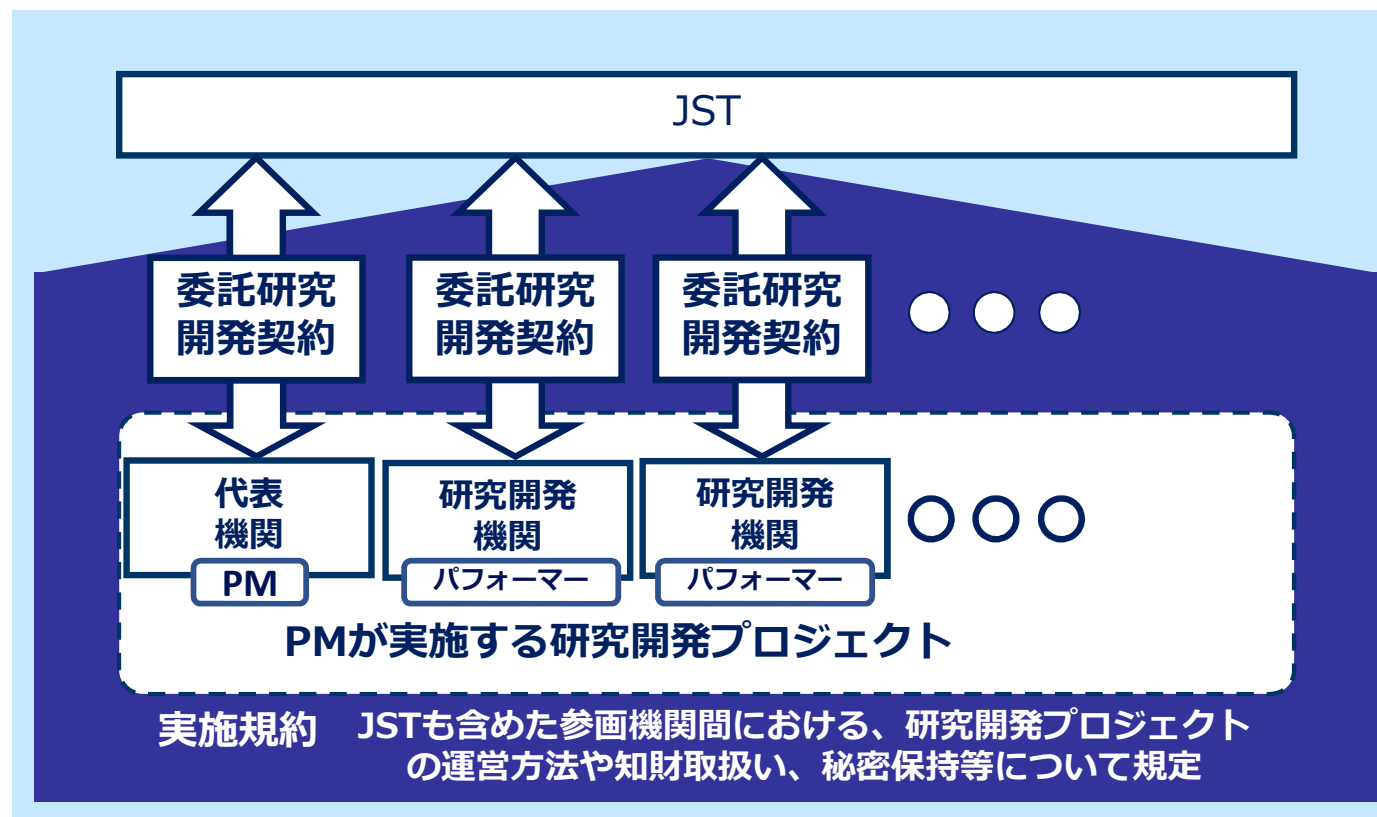
●その他

- ・ 研究開発プロジェクトへ参画する際に遵守すべき事項を定めた実施規約（※）の調整及び整備

（※）委託研究開発契約に先立ち、研究開発プロジェクトに参画する代表機関、研究開発機関及びJSTにおいて、知的財産、秘密保持の取り扱い等、研究開発プロジェクトの運用に必要な諸般の規程を定めた実施規約を作成し、代表機関及び研究開発機関はこれに誓約する必要があります。

- ・ 活動拠点の国内への速やかな移動
（採択時、活動拠点が海外にある場合）

- JSTは研究開発機関等との間で、原則として**委託研究開発契約を締結**。
- なお、委託研究開発契約に先立ち、研究開発プロジェクトに参画する研究開発機関等及びJSTにおいて、知的財産、秘密保持の取り扱い等、研究開発プロジェクトの運用に必要な諸般の規程を定めた**実施規約を作成し、研究開発機関等はこれに誓約する必要があります**



①研究開発構想等

**ムーンショット目標ごとにPMを公募します。
応募に際しては、必ず以下の内容をご確認ください。**

- ムーンショット目標
- 研究開発構想及びPDによる補足説明

**資料・公募説明映像を掲載します。
是非ご覧ください。**

(日本語) <https://www.jst.go.jp/moonshot/koubo/>

(英語) <https://www.jst.go.jp/moonshot/en/application/>

②応募方法

**「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」
により受け付けます。**

ログインID、パスワードをお持ちでない方は速やかに研究者登録をお済ませください。
<https://www.e-rad.go.jp/organ/index.html>

例年、締切直前での応募トラブルが相次いでおります。
✖切に余裕をもって応募いただけるようお願い致します。

✖切後は提案を一切受理しませんのでご留意下さい。

また、✖切後に提案の引き戻しを行うと「不受理」となりますのでご注意ください。

③利害関係

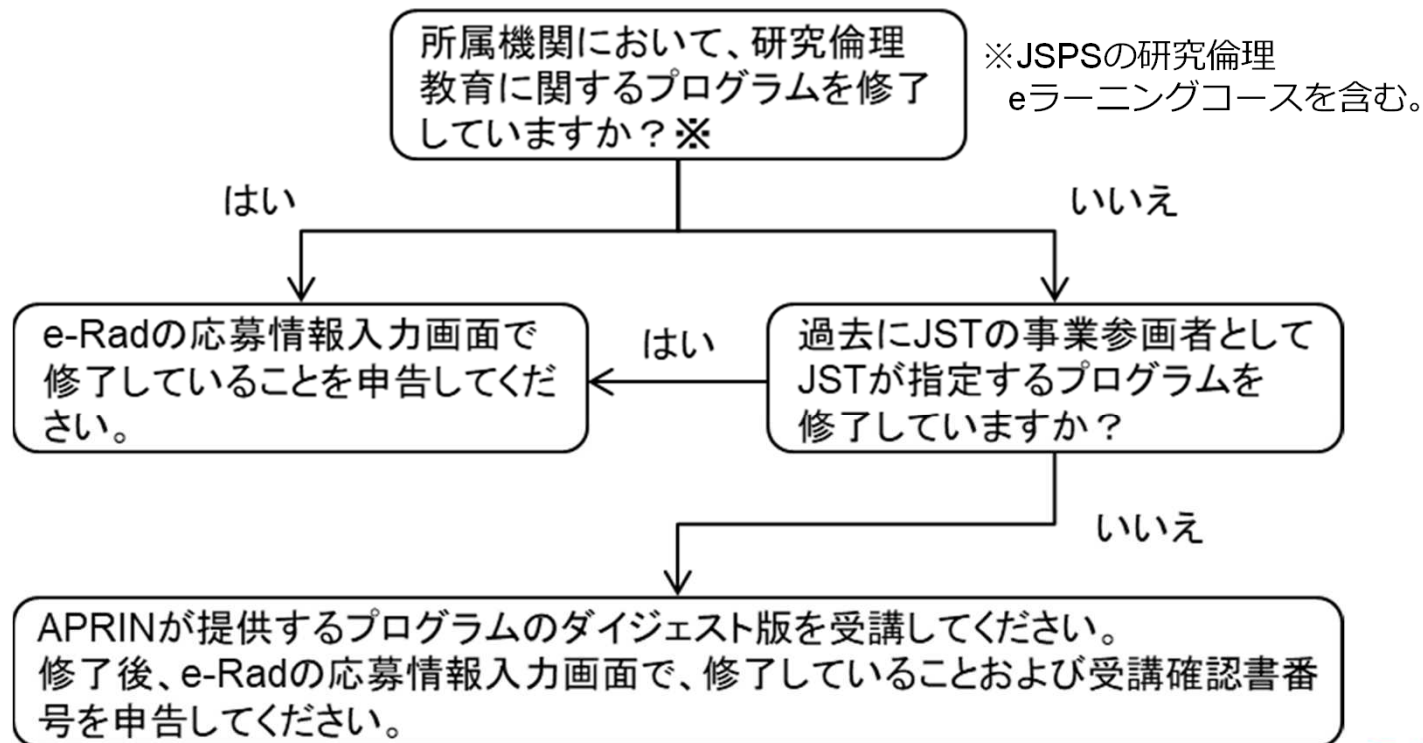
**公正で透明な評価を行う観点から、
提案者に対して、下記に示す利害関係者は選考に加わりません。**

- a. 提案者と親族関係にある者
- b. 提案者と大学、国立研究開発法人等の研究開発機関において同一の学科、専攻等又は同一の企業に所属している者
- c. 提案者と緊密な共同研究開発を行う者。または過去 5 年以内に緊密な共同研究開発を行った者(例えば、共同プロジェクトの遂行、共著研究論文の執筆、同一目的の研究開発メンバー、あるいは提案者の他の研究開発プロジェクトの中での共同研究者等をいい、提案者と実質的に同じ研究開発グループに属していると考えられる者)
- d. 過去に通算 10 年以上、提案者と密接な師弟関係あるいは直接的な雇用関係にあった者
- e. 提案者の研究開発プロジェクトと学術的な競争関係にある者又は市場において競争関係にある企業に所属している者
- f. その他JSTが利害関係者と判断した者

④研究倫理教育プログラムの履修

- 提案者は研究倫理教育に関するプログラムを修了していることが**応募要件**となります。**公募×切までの受講完了が必須となります。**
- 修了していることが確認できない場合は、応募要件不備とみなしますので、ご注意ください。

研究倫理教育に関するプログラムの受講と修了申告フローチャート



⑤同一の者の応募制限等

● 応募の制限

- 一人の提案者が、同一のムーンショット目標に対し、複数の研究開発プロジェクトに応募することはできません。
- 一人の提案者が、複数のムーンショット目標に対し、研究開発プロジェクトに応募することはできません。
- 2件以上の研究開発プロジェクトの提案にPMまたはパフォーマーとして参画を予定し、その研究開発プロジェクトが複数件採択された（注）場合は、研究開発内容や規模等を勘案した上で、PDの判断により、研究開発費の減額や当該研究者が参画する研究開発プロジェクトのうち、一部の課題の参画を認めない等の調整を行うことがあります。

（注）以下の例が該当

採択された提案①【PM】A氏、【パフォーマー】B氏
採択された提案②【PM】B氏、【パフォーマー】A氏

採択された提案①【PM】A氏、【パフォーマー】B氏、C氏
採択された提案②【PM】D氏、【パフォーマー】B氏、C氏

⑥研究設備・機器の購入について

- 新たな研究設備・機器の購入にあたっては、大学及び国立研究開発法人等における「研究組織単位の研究設備・機器の共用システム」（機器共用システム）等の活用を前提。
- 特に大型で汎用性のある研究設備・機器について、他の研究費における管理条件の範囲内において、下記の点などに積極的に取り組んでください。
 1. 提案研究開発課題の推進に支障ない範囲での共用
 2. 他の研究費等により購入された研究設備・機器の活用
 3. 研究設備・機器の、複数の研究費の合算による購入・共用
- 提案書において、購入予定の主要設備（1件2千万円以上）の記載を求めています。採択決定後の作り込みの過程で、当該設備の購入・運用・共用計画もブラッシュアップしていただきます。
- 本事業で実施する各研究開発プロジェクトのより効果的・効率的な実施の観点から、外部の有識者であるアドバイザー等の協力を得たPDの指揮の下で、購入設備の調整を行うことがあります。

⑦人権の保護および法令等の遵守への対応

- 提案に際し、法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合には、研究機関内外の倫理委員会の承認を得る等必要な手続きを行ってください。
 - ・ 研究構想を実施するにあたって、相手方の同意・協力を必要とする研究
 - ・ 個人情報取り扱いの配慮を必要とする研究
 - ・ 生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究 等
- 海外における実地の研究活動や海外研究機関との共同研究を行う際には、関連する国の法令等を事前に確認し、遵守してください。

他の競争的資金制度等で申請及び参加資格の制限が行われた 研究者に対する措置

国又は独立行政法人が所管している他の競争的資金制度等※において、研究費の不正使用等により制限が行われた研究者については、他の競争的資金制度等において応募資格が制限されている期間中、本事業への申請及び参加資格を制限します。

「他の競争的資金制度等」について、2019年度以降に新たに公募を開始する制度も含まれます。なお、2018年度以前に終了した制度においても対象となります。

■ 具体的な競争的資金制度については以下をご参照ください。

<https://www8.cao.go.jp/cstp/compefund/>

（提案公募型研究資金制度については、近日公開予定）

データマネジメント及びDMPについて

ムーンショット型研究開発事業に参加する研究者は、「ムーンショット型研究開発制度の運用・評価指針（公募要領別添参照）」及び「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」に基づき、オープン・クローズ戦略に基づき、**研究開発の成果として生み出される研究開発データの管理・利活用**に努めて頂きます。

PMは、研究開発データのうち、管理対象とするデータを定め、その研究開発データの保存・管理、公開・非公開等に関する方針や計画を記載したデータマネジメントプラン（DMP）を作成し、JSTに提出し、同プランに基づいた研究開発データの管理・利活用を実施していただきます。

内閣府にて議論が進められていますのでご参照ください。

<https://www8.cao.go.jp/cstp/tyousakai/kokusaiopen/>

- 公募に関する詳細は、以下webサイトを
ご覧ください。

<https://www.jst.go.jp/moonshot/koubo/>

面接選考会日程等を順次公開します

- 公募に関するお問合せ

必ずメールでお問い合わせください。

お問合せは「moonshot-koubo@jst.go.jp」までお願いします。